

原発事故から11年— 子どもだった被害者が 今語りはじめていること

福島第一原発事故の避難者は、子どもたちへの被ばくを避ける一心で、母子避難、父子避難、あるいは世帯全部の避難を余儀なくされてきました。では、その子どもたちは当時どう感じ、大きく変わった生活についてどう受け止めてきたのでしょうか。11年経ち、成長した子どもたちが発信を始めています。



開催日

2022年**3月12日**[土]

時間

13時30分～16時30分

事前申込

場所

Zoomウェビナーでの開催
(WEB会議システム)

無料

第1部

講演

鴨下 全生 さん

原発事故でいわき市から東京に避難。様々な体験をする。ローマ教皇に謁見し被害実態を訴える。大学生になり様々な発信を始めている。

わか なさん

「わか十五歳 中学生の瞳に映った3・11」の著者。中学卒業式が間近だった15歳の時、福島県伊達市から山形県に避難。2015年より北海道在住。現在は北海道各地で経験を伝える講演活動を行う。

高橋 若菜 さん

宇都宮大学国際学部教授。新潟、山形等広域避難者の生活・被害実態の調査研究による論文多数。

第2部

パネルディスカッション

講演いただいた3名に、原発賠償関西訴訟の原告の方を交えて、当会の弁護士がコーディネーターとなって、青年の視点から、被害回復のためのこれからをさぐります。

申込方法

以下のURLか右のQRコードからお申込みください。

〈申込期限〉**3月9日**[水]
https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_N0trDDmiT_yGICcRcyuibA


1 事前登録完了後、確認メールが届きます。メールに記載されている参加用URL(リンク)またはパスワードから、当日はご参加ください。参加用URLは、申込者ごとに異なります。2 確認メールは、迷惑メールフォルダに振り分けられることがあります。3 お申込みの際に入力いただいたメールアドレスに、前日までに配布資料を送信します。4 本シンポジウム参加URLの転送や公開を禁止します。5 録画・録音は禁止です。6 本シンポジウムは、インターネットを通じて配信のため、ご利用されるデバイスや通信環境により配信できない場合や参加いただけない場合があります。これらの不具合については主催者は責任を負わず、サポート対応等も行いかねますので予めご了承ください。